

# 旭ろうさい病院ニュース

病院情報誌 増刊号

令和 2 年 5 月 1 日発行

発行所:旭ろうさい病院

〒488-8585

尾張旭市平子町北61番地

TEL 0561-54-3131

FAX 0561-52-2426

## グランドオープンに向けて

院長 宇佐美 郁治



平素は、当院の運営に特別のご配慮をいただき厚く御礼申し上げます。

先般、当院では新型コロナウイルス肺炎（COVID-19）の対応で一時紹介患者さん救急患者さんの受け入れを停止し、地域の連携医療機関の皆様には大変ご迷惑をおかけしましたが、現在は終息し従来通り診療を行っております。

当院では昨年 5 月に新病院が竣工し、ちょうど 1 年を迎えます。今年の 3 月に正面玄関が完成し、現在は駐車場の整備、外構工事を行っており 5 月末にはグランドオープンする予定です。外来駐車場は 6 月 1 日より使用を開始し、病院玄関とは高低差なく出入りいただけるようになります。尾張旭市のあさぴー号は 6 月 1 日より病院玄関前のバス停で乗降いただけるようになります。また、名古屋市の市バス（志段味巡回：小幡～東谷山フルーツパーク）も 10 月より病院玄関まで乗り入れる予定であり患者さんの利便性が良くなります。6 月 27 日にグランドオープン式典を予定しておりましたが、新型コロナウイルス肺炎拡大防止のためやむなく中止とさせていただきます。

長年の念願でありました地域医療支援病院の資格を令和 2 年 4 月 1 日付けで取得することができました。これも皆様方のご支援の賜物と心より感謝申し上げます。このタイミングで地域の先生方との病診連携の研究会を各診療科で企画しておりましたが新型コロナウイルス肺炎感染拡大防止のためすべて延期とさせていただきます。新しい先生方も着任されていますのでいろいろな機会を通じて皆様方にご紹介させていただきます。

皆様におかれましては発熱の患者さんの対応に大変ご苦労されていると思います。当院では、初診の患者さんはもとより再診の患者さんすべてに検温を実施し、発熱・呼吸器症状が見られた場合は感染対策の防護具を使用して専用の診察室で診察いたします。保健所からの SARS-CoV-2 の PCR 検査の依頼にも対応しており、他の医療機関で断られた発熱患者さんの救急搬送も増えています。発熱・肺炎で入院された患者さんは個室

管理を行い、COVID-19 を念頭に鑑別診断をしています。個々の患者さんに感染対策のために防護具を使用して対応するため大変手間と時間がかかり、当院での対応が限界に近く、医療崩壊一步手前であることを感じています。東京で運用されました PCR センターが当地域でも予定されていると聞いております。このシステムが運用され軌道に乗りますと地域全体での発熱患者さんの対応がしやすくなると期待しています。肺炎患者さんにつきましてはこれまで同様、入院が必要な場合、精査が必要な場合にご紹介いただきますようお願いいたします。感染対策の一環で入院患者さんの面会を禁止させていただき、来院者の方々には全員にマスクを着用していただいております。皆様にはご不便をおかけしますがご理解賜りますようよろしくお願い申し上げます。

地域での COVID-19 の蔓延状態にもよりますが、現状では一般診療は制限なく行っており、手術も予定通り行っておりますのでご安心して患者さんをご紹介ください。

当院は 5 月末でソフト、ハード共に完成し、グランドオープンを迎えます。地域医療支援病院として、病院理念である“ 地域の人々と勤労者の方々に信頼される医療を提供します” を実践し、その名の通り地域を支援できる病院になれるよう努力する所存です。皆様方のご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

## <地域医療支援病院とは？>

地域医療支援病院とは、紹介患者さんに対する医療提供や医療機器等の共同利用の実施等を通じかかりつけ医等を支援する能力を備え、地域医療の確保を図る病院として相応しい構造設備等を有する病院であり、当院はこの診療機能を有する病院として令和 2 年 4 月 1 日に指定を受けました。

## <地域医療支援病院としての取り組み>

### ■紹介患者さんへの医療提供

当院では、地域医療支援病院の指定を受けたことを踏まえ、国の医療政策である医療機関の機能分化と連携の促進を進め、今後さらに地域医療従事者の資質向上を図る研修にも力を入れ、連携を強化していきたいと考えています。その窓口として「地域医療連携室」を開設しておりますので、ご活用くださいますようお願いいたします。

### ■機器等の共同利用

当院が所有しておりますコンピューター断層撮影装置 (CT)、磁気共鳴断層診断装置 (MRI) 等の高度医療機器を地域の医療機関の皆様にもご利用していただけるよう、高度医療機器の共同利用を推進しています

# 皮膚科

～よくみかける疾患の移りかわり～



皮膚科部長 榎原 代幸

令和2年4月に、森誉子先生の後任として旭ろうさい病院皮膚科に着任しました。はじめに、自己紹介をいたします。

名古屋市立大学を卒業し、平成3年に名古屋市立大学皮膚科に入局しました。平成13年まで大学に在籍し、平成14年から平成19年まで知多厚生病院に勤務していました。平成20年に一度帰局し、平成21年から東部医療センター東市民病院、平成24年から名古屋第二赤十字病院に勤めていました。

さて、立地や規模の異なる病院に勤務してみて、また、この29年間で振り返ってみて皮膚科の疾患や治療法が変わってきたことなどを感じています。その中で、蜂窩織炎を例にとって以下に述べたいと思います。

ご開業の先生方も科をとわず多くの皮膚病変を診られていて、蜂窩織炎を目にされることも多いと思います。

## 蜂窩織炎

- ・真皮深層から皮下組織に生じる急性化膿性炎症。
- ・顔面や四肢に突然発症し、境界不明瞭な紅斑、腫脹、局所熱感および疼痛を認める。  
(あたらしい皮膚科学 第3版 から引用)

20-30年前にこの疾患を見ていたときは、入院安静、抗生物質点滴、リバノール湿布で、1週間ほどで略治して、2週間前後で元の生活に戻ることのできるようになっていました。また、初診時に典型的な臨床像を呈していることが多く、鑑別に困ることも少なかったように思います。

しかし、この15年ほどで治療して2週間しても腫れや痛みが治りにくい患者さんが多くなっているように感じています。また、初診時に結節性紅斑や深部静脈血栓症と鑑別が難しい症例も経験するようになりました。他科で入院中に蜂窩織炎の出始めのような症状でみていて、どうも経過が異なるので循環器内科に相談して検査をしたところ深部静脈血栓が見つかったことや、蜂窩織炎で入院治療中に呼吸器症状が出て肺塞栓が見つかったこともありました。また、蜂窩織炎が治った後、浮腫が数か月と長く続き弾性包帯を巻いてようやくよくなることも何回か経験しました。

逆に前医で蜂窩織炎治療をして軽快したものの後から浮腫が出てきて、当時勤めていた病院の皮膚科に紹介があり、蜂窩織炎後の浮腫と診断し弾性包帯で巻いて茸状軽快を期待していたところ、リンパ浮腫様に下腿浮腫が硬く変化してきたこともありました。この患者さんは画像検査で鼠径リンパ節の腫脹が見つかり、下肢の浮腫の原因は分かりました。しかし、リンパ節腫脹をきたしたもともとの疾患はすぐには分からず、整形外科・外科・血液内科の併診をしていただき最終的に悪性リンパ腫と診断できました。蜂窩織炎の経過途中に、菌血症や敗血症を呈する患者さん、蜂窩織炎の経過をとっていたものの途中から急速に皮膚症状が変化して壊死性筋膜炎を呈した患者さんもありました。

平均余命が伸びて高齢者が増えてきたためか、以前の典型例と異なる症状の出方や異なる経過を取ることが多くなってきているように感じています。また、ご高齢のためその疾患の経過中に別の疾患を併発することも多くなってきているように思います。皮膚の病気は、見て触って見当がつくものも多く、その一方見た目に惑わされることもあります。

蜂窩織炎の例を挙げて、ほかの疾患との併発や続発の経験を述べましたが、このほかにも日常診療でよく目にする皮膚疾患で、同様にさまざまな変化を取る症例が多くなってきています。このような疾患を含め、ご開業の先生方の皮膚疾患の診断治療の一助になることができればと思います。

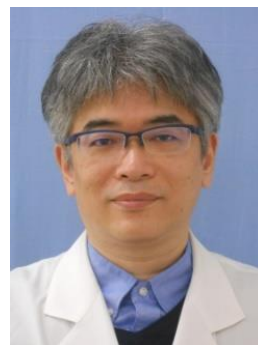
皮膚科医師が1名のため応需できないものもあり、陶生病院や名古屋市立東部医療センターや愛知医科大学をはじめとした大学病院への紹介になることもあり、ご迷惑をおかけすることもあります。

これから、ご開業の先生方と密な連携ができれば幸いです。



# 循環器内科

～行動制限と動脈硬化～



循環器内科主任部長 玉井 希

はじめまして。本年 4 月より、循環器内科に部長として赴任いたしました、玉井希（たまい のぞむ）と申します。前任医師退職後、循環器科は欠員状態で、ご面倒をおかけしておりました。とはいえ、私加えてもまだ常勤医 3 人の小所帯ですが、精一杯 地域医療に貢献させて頂く所存ですので、何卒よろしくお願い申し上げます。

私は、平成 4 年に名古屋市立大学を卒業し、当時の第三内科に入局。初期研修の後、同大学院入学、以降、大学臨床研究医、名古屋市総合リハビリテーションセンター、蒲郡市民病院、公立尾陽病院、名古屋市立東部医療センターを経て、当院に赴任となりました。

当科の診療する疾患は、高血圧、心不全、不整脈、虚血性心血管疾患、その他多岐にわたります。虚血性疾患 即ち、心筋梗塞・狭心症や、閉塞性動脈硬化症などに対しては、カテーテル、血管内治療等にも積極的に行っています。

昨今、TVなどで、「ビタミン C を積極的に摂りましょう」などど流れてまいります。（以下しばらく すこし、つまらないお話です。）私は大学院時代、当時の藤浪隆夫教授に、「抗酸化物質、特にビタミン C（アスコルビン酸）の、動脈硬化抑制効果」というテーマを与えられました。

動脈硬化の経過は、まず血管内皮細胞が障害され、その修復のため、血小板や単球などが集まり、内皮細胞に接着。サイトカイン等が発現し、内皮下に繊維が増殖。単球→マクロファージ、中膜から遊走し合成型となった平滑筋が、酸化 LDL を貪食、泡沫化、壊死し、プラーク形成し、臓器虚血を生じる と説明されています。プラークが破裂、血栓が付着し、内腔閉塞すると（心筋）梗塞に。

ビタミン C には、フリーラジカル捕捉作用があり、その欠乏が、内皮細胞障害を介し、動脈硬化のトリガーとなるか。補充が動脈硬化予防につながるか。

ビタミン C を生合成できない「ODS ラット」（ラットは人間と違い、ビタミン C を体内で生合成できる）をビタミン C 欠乏（壊血病）状態にすると、血管内皮細胞に張りが無くなり、白血球の接着等を、電子顕微鏡で観察しました。

しかし、動脈硬化の実験モデルである、血管内皮バルーン障害実験（ラットの総頸動脈の内皮細胞を、小児領域で使う小さな Forgarty カテーテルでこすりはがすと、数週後に強い内膜肥厚が起こる）では、コントロールに比べ、ビタミン C 欠乏ラットでは、



まったく内膜肥厚が起こらず、パイロットスタディーで頓挫…。ビタミン C はコラーゲン形成にも必須で、その欠乏は、動脈硬化の次の段階の繊維形成などが起こらなくなってしまうものと考えられました。

また、培養細胞介在下で LDL の酸化がビタミン C により抑制されるかを検証する実験で、横着な私は、一週間前に溶解して冷蔵庫に保存し（酸化し）たビタミン C 溶液を加え、かえって LDL の酸化を進めてしまう結果に…。教授の悲しいお顔を見たくなかったため、後 2 者のデータは、発表されることはありませんでした。

その後、約 20 年の月日が流れましたが、いまだビタミン C が動脈硬化の予防につながる evidence は発表されていません。酸化型にも還元型にもなりうるビタミン C は、過剰摂取され、特に腎不全など排泄障害で体内に長くとどまると、酸化型の割合が増え、逆に組織に酸化ストレスを与えてしまうのかもしれない。個人的には、缶などに保存されたビタミン C ジュースの健康への影響には疑問があり、やはり自然のものを、適度に摂取するのがよいと考えます。

さて、昨今 COVID-19 ウイルスの蔓延に対し、当院としても総力を挙げて対処しておりますが、世の中は、「不要不急」の外出を制限され、感染以外の患者様はどこの医療機関でも減少傾向にあるかと存じます。このような状況では、

1. 外出しないことによる、運動量の低下からくるカロリー消費の低下、また、ずっと家にいるため、逆につい食事を取りすぎてしまう（ストレスで、食欲減退、経済的ダメージで、食費を抑えざるを得ない場合もあるが…）等に伴う、カロリーバランスのくずれ。
2. 体を動かす機会が減り、筋肉量・基礎代謝の低下、廃用症状の進行。
3. いつになれば収束するかわからないこの状況へのストレス（家庭によっては、子供や、だんながいつも家に居続けることからくる主婦のストレス）からくる酸素障害。
4. 上記に伴い、動脈硬化は沈黙のうちに進行し続けているが、動かないことにより、労作性症状の出現が起こりづらく（気づきづらく）なる
5. 症状発症しても、感染に対する恐れのため、医療機関への早期受診が遅れる。

等の事が懸念されるかと思えます。

内服継続の必要性、食生活、適度な運動などの指導等、日常生活のコントロールにつきましては、かかりつけ医の先生方のお力を借りるしかない部分もございます。また、本当に必要な場合は、適切な 病院受診を進めていただけましたら幸いに存じます。

何かと大変な局面を迎えている今日この頃ですが、ぜひ 今後ともよろしくお願ひ申し上げます。